

トビウオ通信 (H20 第 6 号)

(本誌はホームページでもご覧いただけます。ホームページにはバックナンバーもあります。)
<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《マアジ新規加入量調査結果速報》

島根県水産技術センターでは、日本海区水産研究所、西海区水産研究所および鳥取県水産試験場と共同でマアジ幼魚の新規加入量調査を実施しましたので、今回はその結果をお知らせします。

結果の概要

- 山口県から島根県沿岸において濃密にマアジ幼魚が採集されました。
- 今年のマアジ幼魚の加入量指数(来遊量の多さ)は、前年の 2.5 倍となり、2003 年の調査開始以来最高の水準となりました。

マアジ幼魚の採集結果と分布状況

2008 年 5 月 19 日から 6 月 11 日にかけて図 1 に示す鳥取県西部から長崎県男女群島周辺の海域における合計 85 地点において、中層トロールネットを用いてマアジ幼魚(2008 年生まれ)を対象とした漁獲調査を実施しました。その結果、尾叉長 3~5cm のものを主体に合計で 26,794 尾(1 曳網当りの平均採集尾数は 315 尾)のマアジ幼魚が採集されました。

マアジ幼魚の分布状況(図 1)を見ると、今年マアジ幼魚の適水温と考えられる水温 16~18℃(水深 50m)の水温帯が隠岐諸島周辺から対馬海峡にかけて広い範囲に分布し、調査を実施した各海域においてほぼ満遍なくマアジ幼魚が採集されました。

マアジ幼魚の分布量に水深 50m の水温分布を勘案して求めたマアジの加入量指数(来遊量の多さを表します)は、来遊量の多かった 2003 年を 1 とすると、今年 1.19

となり、昨年(0.48)の2.5倍、2003年の調査開始以来の最高水準となりました(図2)。

また、島根県水産技術センターが季節ごとに行った同様の調査結果(図3)によると、山陰沖へのマアジ幼魚の加入のピークは6月上旬にあったと考えられます。一方、九州沖では7月上旬になってもマアジ幼魚が多数採集されたことから、量的にも時間的にも広く九州沖から山陰沖にかけてマアジ幼魚が分布していたと推定されます。

漁業によるマアジ幼魚の漁獲状況

マアジの加入量指数(来遊量の多さ)が高ければ、山陰沖でマアジ幼魚(2008年生まれ)が多く漁獲されると考えられます。図2に境港におけるまき網1ヶ統あたりの尾数と加入量指数の関係を示しました。前年(2007年)は加入量指数が高かったにも拘わらず、まき網によるマアジ幼魚の漁獲量は少なかったため、これらの関連性については今後検討の余地が残るものの、加入量の多寡を検討する上での補足指標となります。

ここで、浜田船が浜田漁港に6~7月に水揚げしたマアジ幼魚のCPUE(操業1回あたりの漁獲量)(図4)をみると、今年は前年と比較して、中型まき網で1.3倍、大型定置網で2.3倍となり、前年を上回って漁獲されています。このことから今年のマアジ幼魚の加入量が多いことが伺えます。なお、中型まき網で漁獲されたマアジ幼魚の魚体サイズは、6月が5~8cm(平均6.5cm)、7月が6~12cm(平均8.7cm)でした。

今後のマアジ漁況との関係

マアジは主に東シナ海で生まれ、対馬暖流に乗り、日本海に漁獲対象として加入すると考えられています。また、マアジはイワシ類やサバ類と異なり、ある大きさ(7~8cm)になると大きな移動はせず、瀬等の海底地形に依存して分布すると考えられています。

今年のマアジ幼魚の加入量指数(来遊量の多さ)は2003年の調査開始以来最高の数値であり、また、島根県沖でも定着すると考えられるサイズのマアジがまき網や定置網で多く漁獲されています。これらのことから、多くのマアジが日本海に流入し、そして山陰沖に広く定着・加入していると考えられます。これらのマアジが今後山陰沖での漁獲に加入することで、漁獲量の増加につながると期待されます。

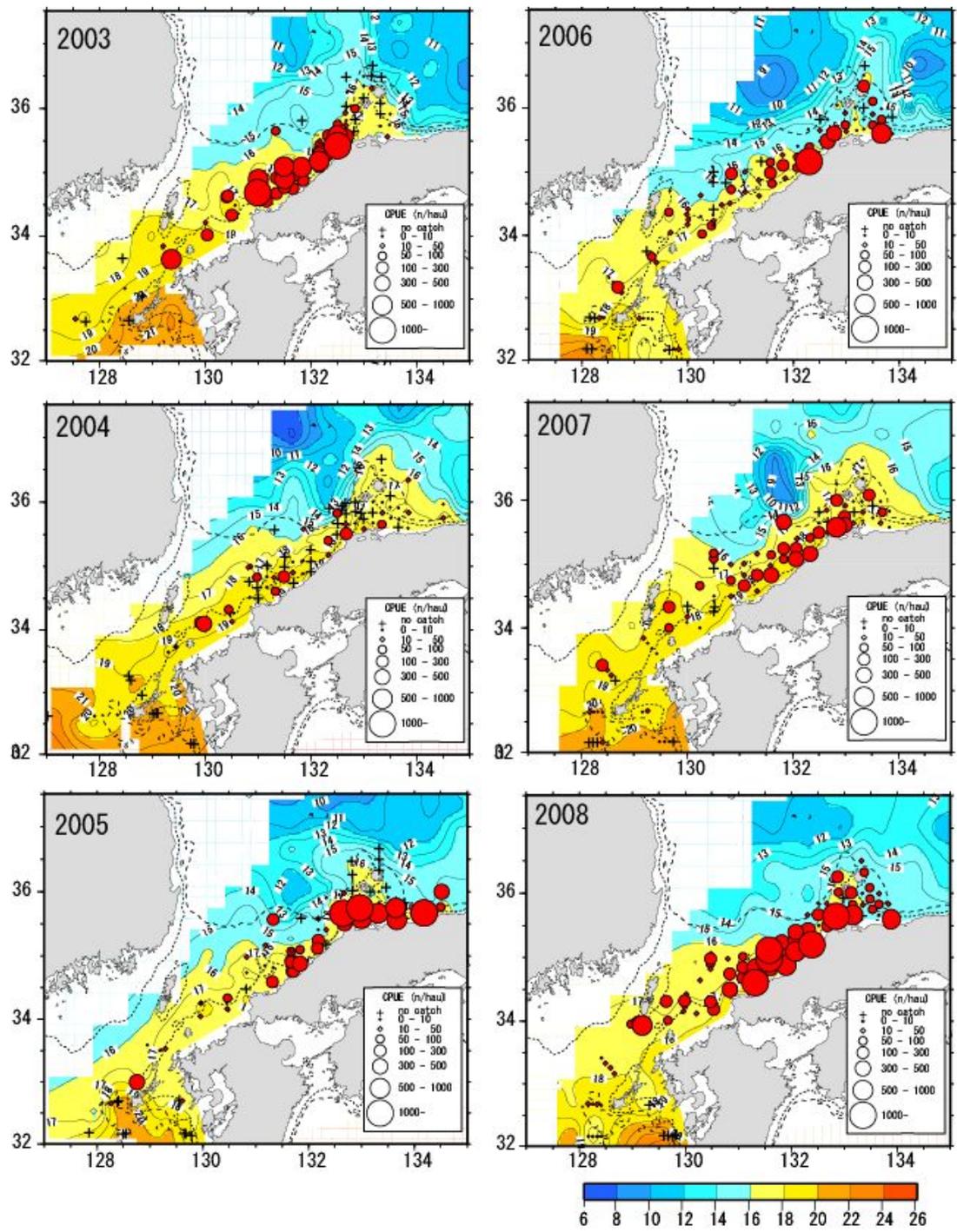


図 1 中層トロール調査における 2003～2008 年のマアジ幼魚の採集結果

(資料:鳥取県水産試験場)

円の大きさはマアジの採集量の多さを表し, +は採集されなかった点を表す.
 カラー部分は水深 50m の水温分布を表す.

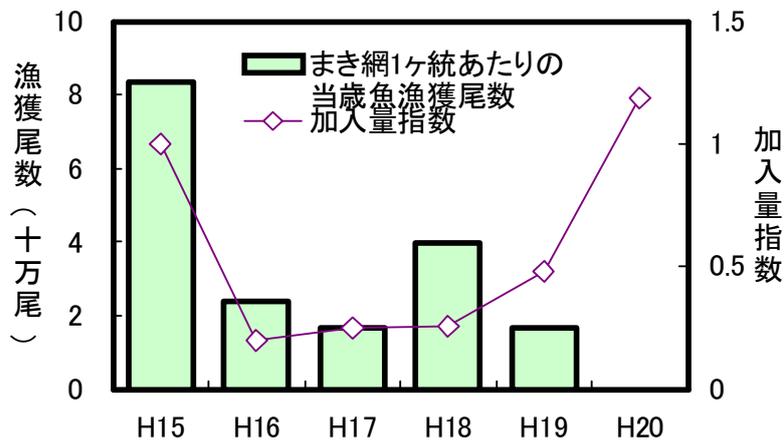


図2 マアジの加入量指数と境港におけるまき網1ヶ統あたりの当歳魚漁獲尾数の関係(資料:鳥取県水産試験場)

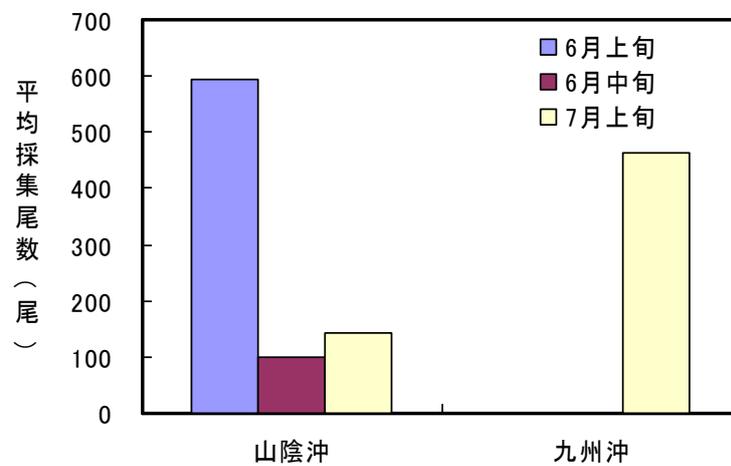


図3 マアジ幼魚の季節別採集尾数(九州沖は7月上旬のみ調査を実施)

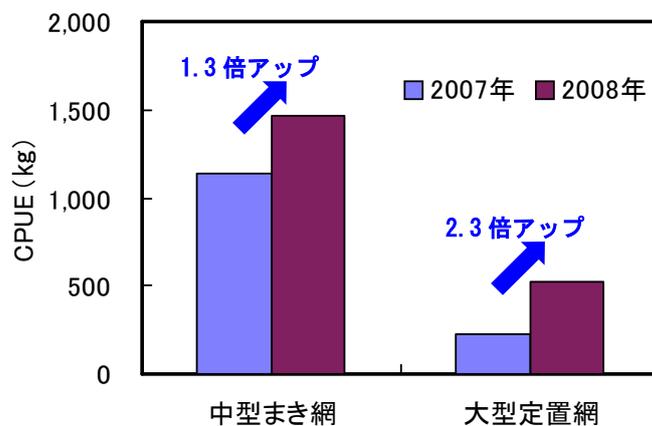


図4 浜田漁港における6月～7月に水揚げされたマアジ幼魚(ジャミアジ)のCPUE(操業1回あたりの漁獲量)